

令和6年12月1日

会報「桐の花」第102号

— 目 次 —

桐の花第102号発行にあたって	1
事務局からのお知らせ	5
事業所だより 岩手マッサージセンター	6
岩手ガイドヘルパーセンターあゆみ	7
第19回岩手県視覚障害者福祉大会	8
全国障害者スポーツ大会 SAGA2024 を終えて ..	14
理事就任のご挨拶と東北福祉大会に参加して .	18
全国視覚障害青年研修大会ほか	20
全国視覚障害女性研修大会	25
福祉協会協力金	28
編集後記	29

編集発行 社会福祉法人岩手県視覚障害者福祉協会事務局

責任者 及川清隆

住所 〒020-0015

盛岡市本町通3丁目6-20 岩手県視覚障害者福祉会館内

電話・FAX 019-652-7787

電話(2階) 019-629-3434

郵便振替口座 02250-4-53987

社会福祉法人岩手県視覚障害者福祉協会

※ この会報は(公財)岩手県福祉基金の助成を受けて発行しております。

私達が目指すもの

○ 視覚障がい者の自立支援

私達は、視覚障がい者の安全・安心な暮らしを支援すると共に、按摩・マッサージ・指圧、鍼、灸の職業の自立支援を目指します。

○ 視覚障がい者本位の生活支援

私達は、視覚障がいがある人の個々の特性を尊重し、求められる日常生活向上の支援を目指します。

○ 開かれた経営

私達は、企業的発想を持ち、施設利用者や地域の意見を尊重すると共に情報を開示し、公共的・公益的立場に立った、開かれた経営を目指します。

○ 障がい者福祉の一体化活動

私達は、視覚障がい者福祉活動を基本としながら、障がいの種別や程度を越えて、障がい者の仲間と共に障がい者福祉の活動を目指します。

○ 地域と共生の福祉活動

私達は、地域と連携しながら共生し、障がい当事者や地域のニーズの実現を図ると共に、掲げた活動理念の実現を目指します。

桐の花第102号発行にあたって

理事長・会長 及川 清隆

師走の候、読者の皆様にはお元気でお過ごしでしょうか。

近年の気候は、例年感じることですが、春と秋が短すぎるような気がします。そうした本年も残りわずかとなりました。

今回は嬉しいニュースからお知らせいたします。

去る10月26日から28日まで開催された、佐賀障害者スポーツ大会のグランドソフトボール競技の部で、初めて岩手県チームが見事に第2位となり、銀メダルを手に帰ってきました。なかなかチームのメンバーが揃わない中で、練習を積み重ねて、頑張ってもらいました。選手の皆さん、お疲れさまでした。詳しくは、本号の掲載記事をお読みください。以前私も、選手や監督として、関わったことがあるだけに我がことのように嬉しいかぎりです。

最近の動きについて2点お知らせします。

1点目は、新たなエスコートゾーン設置についてのお知らせです。盛岡のマリオスとアイーナとの間にある音響信号機設置場所の横断歩道にエスコートゾーンが来年敷設されることとなり

ました。この件については、11月12日に盛岡西警察署の方が来館されて、お話していただきました。このエスコートゾーン設置は、令和5年度に開催された第18回岩手県視覚障害者福祉大会時の決議に書かれていたことから、実現したものです。

2点目は、アイーナの中に敷設されている点字ブロックらしき銀色の誘導鋏についてです。このことについては、県内の視覚障害者団体で組織している岩手県視覚障害者団体連絡協議会の会議や支部長会議でアイーナ開設当時から、「黄色い色でないため、弱視者には見えない。点字ブロックを敷設してほしい、何とか解決してほしい。」との意見が出されていた件です。これまで成田副理事長を中心として、本年度盲聾者友の会や当協会が県と話し合ってきました。結果、岩手県では、「点字ブロック敷設は予算がかかるので、黄色い色を銀色の誘導鋏に塗ることとしました。」とのことでした。私たちが望んでいるような全面的解決とはなりませんでしたが半歩前進と言って良いと思います。

実は、福祉大会で決議された事項については、毎年度岩手県と盛岡市に決議文を提出しています。その後、年度末頃には、文書回答をいただいております。行政の立場からすると、文書

でもって回答するという事は、なかなか大変なことなのです。こうした二つの対応をいただいていることは、県も市も私たちの思いを受け止めていただいている結果です。皆様と共に感謝いたしましょう。

次に、11月12日の点字毎日新聞(点字版)の記事に、「東京の地下鉄駅で、視覚障害者が背後から蹴られる暴行事件があった。」と報じられていました。1か月後に30代の男性が容疑者として逮捕されたといえます(詳細は点字毎日新聞を参照ください)。警察にすぐ通報したこと、防犯カメラが一部始終を記録していたことが逮捕につながったようです。

私は以前から、「見えない人は、事件に巻き込まれたとき、いろいろ事情聴取されても、相手がどんな人か分からない。男性か・女性か・背の高さ・眼鏡をかけていたか・どんな服装をしていたか…などなど。」等、どうしたら良いのか疑問に感じていました。そこで、先日来館された警察の方に尋ねてみました。

「見えない人が事件に巻き込まれたとき、事情聴取を受けてもなかなか答えられませんが、通報したら、事件として受け止めてもらえますか？」と聞きました。

すると、「あちこちに防犯カメラがありますし、事件として取り扱いますから、迷わずに110番に通報してください。110番の通報が一番早く伝わるので、宜しく願います。」とのことでした。本来ならば事件にならないのが良いのですが、もし何かあった場合は警察へ通報することと、本部への相談をお願いします。

本年最後の会報に少し不安を抱くようなことを書きましたが、闇バイト強盗や障害者に暴力を振るうような昨今ですので、十分身を守ることも考えておく必要のある時代になったことを私たち自身受け止めなければと思います。本当に物騒な時代になったものです。

来年は、当会が発足して75周年目を迎えます。会活動や法人運営及び事業運営は課題があるものの、皆様のご理解とご協力で、着実に充実していると受け止めております。来年も、宜しくお願い申し上げます。

結びになりますが、本年は能登半島地震・豪雨災害等自然災害が多い年だった気がします。来年こそ、穏やかな1年であるように念じたいものです。そして何より、ご家族共々皆様方の

ご健勝とご多幸を祈念申し上げ挨拶とします。良いお年をお迎えください。

事務局からのお知らせ

<事務局だより>

今年は年の初めから、能登半島地震、羽田空港で飛行機事故が相次いで発生し、波乱の幕開けとなりましたが、そんな令和6年辰年ももうすぐ暮れようとしています。

会員の皆様方におかれましては、ますますお元気でお過ごしのことと存じます。

辰年は、活気に満ち、大きく成長する年とも言われていますが、当協会においても、皆様方からのご意見やご要望をいただき、アイーナの点字ブロック改修工事やマリオス・アイーナ間のエスコートゾーンの敷設など一定の見通しが立ち、少し前進した年でもあったのかなと思っています。貴重なご意見を届けていただきありがとうございます。感謝申し上げます。

来年も皆様にとって良き年となりますようお祈りいたします。

☆12月～3月の主な行事予定

12月 7日(土) 第4回理事会

12月15日(日) キャリアアップセミナー

フロア・バレーボール(場所:盛岡視覚支
援学校)

12月29日(日)午後～1月3日(金) 年末年始休業

1月26日(日) 支部長委員会②、役員研修会、新年交賀
会(予定)

2月 2日(日) 岩手県視覚障害者団体連絡協議会意見
交換会(予定)

3月 8日(土) 第5回理事会(予定)

<事業所だより>

就労継続支援B型 岩手マッサージセンター

施設長 中田 一洋

当事業所は、あん摩・マッサージ・指圧師、はり師、きゆう師
の免許を有する視覚障害者が、施術に必要な技術及び生活の
質の向上に努め、自立更生を図ることを目的として設置されて

います。利用者は、お客様の健康管理、介護予防のお役に立てるよう心を込めてサービスを提供しています。

今年度は、利用者も1名増え(5月に契約、6月から利用開始、研修を経て9月より施術開始)、10名から11名になりました。

また、コロナで中断していた「お客様感謝デー」を11月3日に復活しました。コロナ明けという事で案内の範囲を小規模にして実施し、11名のお客様に対して、日頃からの感謝の気持ちを込めてマッサージを行いました。今後は、徐々にコロナ禍前の規模に戻していきたいと考えています。

岩手ガイドヘルパーセンターあゆみ

管理者 佐藤栄子

令和6年度 事業所活動内容をお知らせします。

5月 利用者研修・交流会開催(今後の事業所活動について懇談)

6月、7月 同行援護従事者養成研修事業への協力

10月 利用者交流会開催(花巻東和温泉日帰り入浴と昼食会開催)

10月 ガイドヘルパー研修交流会開催(サンセール盛岡)

令和元年に同行援護事業を開始し今年度6年目となりました。
開所当時ご契約頂いた利用者様は50名程でしたが、現在は盛岡市外を含め倍以上の方々にご契約頂いております。

ガイド活動は、日常生活に必要な事や、研修会、イベント、ご旅行等多岐にわたります。

活動が継続出来ているのは、ご利用者様とガイドヘルパー、事業所との信頼関係があるからこそと皆様に感謝しております。ありがとうございます。今後とも宜しくお願い致します。また、盛岡へお越しの際はご利用頂きますようお願いしております。

岩手ガイドヘルパーセンターあゆみ 019-622-1855

第19回岩手県視覚障害者福祉大会

理事 成田優子

8月4日(日)盛岡市総合福祉センターにおいて第19回岩手県視覚障害者福祉大会を開催しました。県内各支部より多くの

会員の皆様にご参加いただきました。ご来賓の方をはじめ関係者あわせて総勢100名近い参加者でした。

午前中は大会式典と大会議事、そして盛岡盲人ホーム・岩手マッサージセンター開所60周年記念式典を執り行いました。午後は祝賀会でした。

岩手マッサージセンター開所60周年記念式典では利用者を代表して佐々木ひで子さんより、施術中にぐっすり眠ってしまわれるお客さまのエピソードを交えながら、今後も地域の方の健康増進のために頑張っていきますとあいさつがありました。

午後の祝賀会では元所長の佐々木翼さん、元職員の太田宣子さん、戎ゆみ子さん、元利用者の方々よりマイクリレーで一言ずつメッセージをいただきました。太田さんからは県知事の達増拓也さんがプライベートでマッサージを受けにいらしたときのエピソードをお話してくださいました。それから当日は参加できませんでしたが、盲人ホームの元職員の小野寺日出子さんの声を事前に録音したものを会場で流して90歳を超えている小野寺さんのお元気な声を聴きました。

祝賀会の終盤には佐賀善治さんと村上晃さんによるギターとハーモニカの演奏にあわせてみんなで歌を歌い、会を締めくくりました。

昨年の第18回大会で決議された大会決議項目を岩手県へ要望したところ、盛岡西警察署より、盛岡駅西口のマリオスとアイーナの間の横断歩道にエスコートゾーンの設置が決まりましたという連絡がありました。このように福祉大会を通じて私たちの要望を受けての施策が着実に前進しています。引き続き粘り強く国や自治体に訴え続けていきましょう。

次に、今回の福祉大会で採択された大会宣言と大会決議を掲載します。

<大会宣言>

本日ここに岩手県内の視福協会員と関係者が一同に集い、第19回岩手県視覚障害者福祉大会を開催できますことは私たちにとってたいへん大きな意義を持つものです。また、大会運営のためにご尽力いただきました役員の皆様、ガイドヘルパーの皆様にご心よりお礼申し上げます。

元日に石川県能登半島を最大震度7の大地震が襲い、北海

道から九州にかけ広い範囲が揺れました。自然災害が起きるたびに災害弱者としての視覚障害者の課題が浮かび上がります。私たちは一つ一つの災害から得られた教訓を皆で分かちあい、行政や地域の方たちと協力しあうことにより、少しでも被害を少なくすることを目指さなくてはなりません。

本年4月より合理的配慮の提供の義務が民間企業にも適用となりました。しかし、「過重な負担にならない範囲で配慮する」という言葉の解釈次第では過重な負担を理由に断られることも懸念されます。私たちは引き続き障害を理由とする不当な差別的取り扱いが起きないように取り組んでいかなければなりません。

日本は現在、高齢化が急速に進行しています。そのようななか高齢の視覚障害者が養護盲老人ホームへの入所を希望しているにもかかわらず経済的条件を理由に入所判定が下りないという事案が発生しています。健常者も障害者も誰もが高齢者となります。現在の措置入所の制度だけではなく契約入所の導入も含めて入所基準の緩和を強く要望していかなければなりません。

日常生活においては私たちが自立した社会生活を送るため

に必要な白杖や拡大読書器のほとんどが物価高騰の影響により商品販売価格が高騰し、これまでの給付基準額では購入することができず、高額な自己負担が発生しています。また、セルフレジ化・キャッシュレス化やオンライン会議への出席、マイナ保険証の導入など引き続き会員同士の情報交換の場と研修の機会が必要です。

本日ここにお集まりの皆様と、私たちを取り巻く諸問題について討議を深めてまいりました。私たちの日々の生活向上のためにはまだまだ課題が山積しています。そうした諸課題の解決に向けて、共に団結して活動していくことをここに宣言いたします。

令和6年8月4日

第19回岩手県視覚障害者福祉大会

<大会決議>

- 一、 養護盲老人ホームの入所基準のうち特に経済的理由の規制緩和をし、希望する者が安心して入所できるよう要望する。
- 一、 日常生活用具の給付品目とその耐用年数の見直しとともに

に基準額の引き上げを要望する。

- 一、 障害者差別解消法の周知徹底とその理念を広く県民に啓発するとともに、行政の窓口や民間事業者に対して適切な合理的配慮が行われるよう要望する。
- 一、 読み書きが困難な視覚障害者に対して意思疎通支援事業の「代筆・代読」支援を拡充するよう要望する。
- 一、 弱視者（ロービジョン）が安全に移動できるよう、 公共施設および駅や商業施設などの点字ブロックと階段の段鼻は黄色にするよう要望する。
- 一、 他の郵便物と見分けやすくするために投票所入場券や市町村からの郵送物等に「〇〇市」など拡大文字と点字を貼付するよう要望する。
- 一、 駅や公共施設、大型商業施設等の建設、改築等の際はバリアフリーの観点から施工前に当事者の意見を取り入れるよう要望する。
- 一、 スーパーやコンビニなどのセルフレジは視覚障害者単独での操作が困難なため、サポートのための店員を配置すること。また従来の店員対応の有人レジを残すよう要望

する。

- 一、 重度心身障害者医療給付費償還払いを早急に受領委任払いとするよう要望する。また、委任払いを導入した際の補助金の減額を実施しないよう強く要望する。
- 一、 行政手続きのオンライン化にともない視覚障害者が取り残されることのないよう点字、拡大文字、音声読み上げなどアクセシビリティに配慮した情報発信を要望する。

以上、決議する。

令和6年8月4日

第19回岩手県視覚障害者福祉大会

全国障害者スポーツ大会 SAGA2024を
終えて

岩手県グランドソフトボールチーム 監督 伊藤 武

私達、岩手県グランドソフトボールチーム17名は10月26・27日に開催された全障スポSAGA2024に北海道・東北地区代表として参加しました。

私は監督会議に出席する為、金野さんと一緒に24日の夜に新幹線で東京まで行き、25日の朝の飛行機で福岡空港へ、そこから電車で会議のある佐賀県の白石町役場まで行きました。久々の長距離移動と初めての全国大会の監督会議への出席、「ついにこの日が来たんだな」と期待と不安を覚えました。チームの本隊は25日に新幹線と飛行機を乗り継いで佐賀県入りしました。グランドソフトボールの試合会場は白石町の白石町総合運動場です。そこからバスで50分くらいにある嬉野温泉の千湯樓という旅館が岩手チームの宿泊場所です。自然溢れる山間にあり、露天風呂に入りながらその山の雰囲気味わえてとても良い旅館でした。

大会1日目。26日は小雨の降る朝でした。試合の開催に影響がないか心配でしたが、競技の開会式が取り止めとなっただけで試合は日程通り行われました。雨は私達の試合の時間前には止みました。岩手は抽選でシードになり、神奈川県と佐賀県の勝者と準決勝で戦う組み合わせです。その試合は佐賀県が4対1で神奈川県に勝利しました。

佐賀県はこれまでの大会ではあまり名前が聞こえてきません

でしたが、地元開催の今大会に向けしっかりチーム作りしてきた印象を受けました。

対佐賀戦は、私は守備から流れを作りたいと考え後攻を選択。1回表に佐賀に1点を先取されましたが、2回裏に1点を取り追いつきました。3回裏と4回裏に追加点を取り突き放し、佐賀の反撃は1点に抑え2対6で勝利しました。佐賀の上位打線は強力で長打は打たれましたが単発に抑えることができたこと、早い回で追いつき佐賀に流れを渡さなかったこと、岩手の打線が粘りの攻撃で相手投手にプレッシャーをかけたこと、それらが勝因だと私は思います。チームの長所がしっかり発揮できた良い試合でした。佐賀も本当に素晴らしいチームで、いつかまた試合がしたいと感じました。この勝利で岩手チームにとって全障スポ(国体)で初めての決勝進出となりました。

大会2日目。いよいよ決勝戦の日です。この日は昨日と違い、天気が良く暑いくらいでした。相手は福岡です。打線も強力、守備もスーパー全盲もいて鉄壁です。

大会2連覇中で最近は大会で失点ゼロというまさに王者です。この試合でも私は守備から流れを作ろうと後攻を選択。1回表

は2失点で切り抜けましたが、その後は2回に4点、3回に7点、4回に1点と福岡の強力打線を抑えることができず、14対0で敗北しました。こちらの攻撃は1回に2塁・3塁、4回に1塁・3塁とランナーを出しチャンスは作りましたが、もう一本が出ず無得点という残念な結果となりました。ここまでの大敗は久々です。福岡は本当にスキのない強力なチームでした。ただ、失点が続いた際に私が監督としてタイムで間を取ったり、一時的に投手を交代したり、もう少し失点を減らせるよう何かできたように感じます。守備時間が長くなり、冷静な判断と決断ができませんでした。これは次の試合に向けての課題にしたいです。福岡には負けてしまいましたが、久々の全障スポで準優勝でき本当にうれしく思います。

表彰式で銀メダルを受け取った際は胸が熱くなりました。

この他にも28日の帰りには飛行機が遅れ、東京駅で新幹線に乗り遅れそうになったりと、ここでは書ききれない出来事がたくさんありました。全て貴重な思い出です。これもグランドソフトボールをやっていたから体験できたことです。グランドソフトボールを続けていて本当に良かったと思っています。これからもこの

素晴らしいチームが活動していけるよう監督として努めていきたいと思ひます。

最後になりますが、全障スポに向け多くの皆様からの御協力・御支援をいただき本当にありがとうございました。

理事就任のご挨拶と東北福祉大会に 参加しての感想

理事 福永 光雄

今年の6月に岩手県視覚障害者福祉協会理事に就任いたしました福永光雄(ふくなが みつお)です。平成25年度より盛岡支部会員として在籍しておりましたが、出不精で面倒くさがりな性格なため支部総会と夏の福祉大会に出席する程度でした。

視覚支援学校専攻科時代の担任、高橋弘理事に押され、お引き受けすることにいたしました。

盛岡市内のデイサービスで機能訓練指導員をしており、趣味はお酒を少量飲むこと、当たらない宝くじを買うことです。

中途の視覚障害で墨字も点字も読めないなので、只今スマホ

の活用法と点字を学習中です。皆様どうぞよろしくお願い致します。

さっそくですが、東北視覚障害者福祉大会に初めて参加した感想を述べさせていただきます。これまでは、自分が障害者だから、福祉サービスや公共料金・運賃の割引を受け、就労や日常生活の場面で差別されないよう配慮されることが国や事業主の義務で当然のことと考えておりました。しかしながら、それは当然にあったものではなく、我々の先輩が苦勞して国や社会に訴え実現されたものだと言われました。障害者一人ひとりの声は小さいですが、支部で、都道府県で、地域ブロックや全国単位で我々の意見を国や社会に訴えていくことが、視覚障害者が住みやすい社会の実現につながると確信しました。

私は感化されやすいので視覚障害者福祉協会の活動を通して、視覚障害者の声を社会に伝えていきたいと考えております。デジタル社会に取り残されないようなマイナンバー保険証やセルフレジなどの問題や、災害時の避難や被災した障害者への支援など訴えていかなければならないし、社会に理解してもらえるよう活動をしていかなければなりません。

そのためにはほかの団体と親睦を深めることが何より重要と思ひ情報交換会つまり懇親会で頑張りました。理事長会議や女性部長会議や青年部長会議がありました。わたしは宴会部長会議を開催したいと思ひました。宴会が目的で？参加した東北福祉大会でしたが、青年部長たちの意見を聞いたり、日視連の竹下会長の講演を聞いて視覚障害者団体の活動の意義を知ることができました。

岩手からは今年は貸切バスでの移動で、11名の参加でした。来年の福島大会に皆様も一緒に参加しませんか？

第70回記念全国視覚障害青年研修 大会大阪大会報告ほか

理事 日野沢 ひなわ

先日大阪で行われた第70回全国青年研修大会大阪大会の報告をいたします。

またそれに合わせて今年度の岩手の青年部の活動に対して、青年協議会より助成金をいただくこととなり、その助成内容と予

定している青年部活動内容についてもご報告いたします。

1. 第70回全国青年研修大会大阪大会の報告

9月15日・16日に大阪で開催された全国青年研修大会に参加させていただきました。今年は第70回という記念すべき年でもあり、現地にも全国よりたくさんの参加者にお集まりいただきました。青年協議会常任委員という実行委員側としても、このようにたくさんの方にご参加いただけたことをとても嬉しく思います。

大会の内容として、15日は青年協議会代表者会議、現地の研修会、懇親会、プチ分科会、16日はシンポジウムと大会式典が行われました。

今年の代表者会議では近年のブロックごとの団体の連携体制についての事例紹介がされました。東北ブロックからは各団体の青年部長によるグループ Line の開設、東海ブロックからは zoom を利用した研修と意見交換の事例、近畿ブロックからは交通の便の良さを活かしたリアルでのブロック全体の活動の事例が報告されました。特に近畿ブロックは各県の交通の容易さもあり、頻繁にリアルで集まられて活動されているとのことで、各県の面積が広く、集まり難い東北ではそのまま取り入れること

は難しいですが、そのようなイベントも今後できたら楽しそうだなと感じました。

研修会では参加者が3班に分かれ、お好み焼き体験、たこ焼き体験、水陸両用バスツアーを楽しみました。日野沢は水陸両用バスツアーに参加しましたが、天満橋、天神橋、難波橋という3名橋の下を潜るという貴重な体験をしたり、大阪のツアーガイドさんの矢も盾もたまらぬトークに驚愕するなどしました。参加者も大阪の空気に当てられ、とても楽しい一時となりました。

シンポジウムでは青年協議会の歴代会長をファシリテーターとパネリストにお迎えし、青年協議会のこれまでの歴史と、これからについて意見交換がされました。各地の団体で青年会員の減少が問題となっていますが、これからの時代にも当事者の団結がひきつづき大切であることが改めて話題にあがりました。情報の流れ方、流れる場所、コミュニケーションの形など、ICTの発達により人の繋がり方は変化していきますが、時代に合わせる形で団結を繋げて行く必要性を感じました。

来年の全国青年研修大会は愛知県豊橋市を会場に行われる予定です。青年協議会常任委員のいる地での開催となり、実

行委員もさらに深い繋がりを持って開催の準備をしてまいります。来年の大会も全国より多くの方にご参加いただけるよう、企画に携わりたいと思います。

2. 岩手県の青年部活動に対する青年協議会からの助成について

以下の内容での活動を予定し、青年協議会より3万円の助成金をいただくことになりました。

(1) 活動内容

視覚障害青年の生活実態の啓蒙を目的とした街歩きイベント

(2) 目的

日野沢の周囲の県内の青年層に調査を行ったところ、自分たちが何かを体験したいというニーズよりも、より視覚障害者のことを健常者に知ってもらえるイベントをしたいというニーズが浮上しました。

これをもとに、実際に視覚障害者と健常者の一般参加者で街を歩いてみるという体験を通じ、視覚障害者のこと

を健常者に知ってもらおうというイベントです。

またその中でも当事者側から「目的のないウィンドーショッピングがしたい」という声もあり、テーマを「視覚障害者とウィンドーショッピングをする」というものにしました。視覚障害者の公共交通機関の利用、手引きや単独移動の仕方、買い物を通じた情報伝達とコミュニケーションの啓蒙を目指します。

(3) 詳細

日 時:2024年10月20日(日)午後(予定、参加者の人数によっては再設定)

主な流れ:盛岡駅付近で集合。参加者の自己紹介と手引きの練習をした後、鉄道を利用し新設された前潟駅へ移動。イオンモール盛岡にてウィンドーショッピング。サイゼリヤイオンモール盛岡店にて点字メニューの紹介をしながら食事。前潟駅から盛岡駅に戻り解散。希望者があればその後懇親会。

(4) 助成金の用途

盛岡駅と前潟駅の往復の交通費・サイゼリヤでの飲食
費・その後の懇親会費

報告は以上となります。どうぞよろしくお願いいたします。

第70回記念全国視覚障害女性研修大会 (中国・四国ブロック香川大会)に参加して

北上支部 高橋 義光

この大会は、令和6年9月4日(水)・5日(木)の2日間に渡り、香川県高松市で開催されました。岩手県からの参加者は女性7名、男性5名、そして添乗員1名という総勢13名で、9月3日に花巻空港から出発しました。前の週に台風10号が迷走していて岩手にも影響があるかどうか分からず、出発できるか否か心配していました。3日には、台風の影響もなく無事に出発できてみなさん安堵の思いでいっぱいでした。

4日の午後は、「私の日常生活の一工夫」というテーマでレポ

一ト発表と意見交換が行われました。今回の発表では、ICTを利用して生活の工夫をしているとのことが多くありました。数年前まではこれほどの事例の発表はなかったと思います。ある全盲の方が、回覧板の確認印が自力で押せないことを話され、どうしたら所定の場所に押印できるかと問いかけておられました。これに対してフロアの方が、ビーマイアイズ(Be My Eyes)というアプリを使用してカメラを通して遠隔サポートしていただく方法があることを話されておられました。これも時代の流れだなと感じました。ただ、すぐれたデバイスやアプリがたくさん存在していてもそれらを利用できない人、知らない人たちにどのようにして情報を提供するかが課題だと感じました。翌5日には9時30分から式典と議事が行われ、大会は予定通り午前で全て終了しました。

さて、話は変わりますが、3日は花巻空港から大阪伊丹空港まで飛び、そこから貸切バスで高松市に向かいました。途中明石海峡大橋を渡り淡路島に寄りました。

ここで最初の昼食で、タコ飯をいただきました。柔らかいタコがたくさん炊き込まれており、ボリューム満点のお昼でした。そ

の後、少しバスで移動して、今度は石鹼づくり体験です。石鹼の素がビニール袋に入っており、これをコネコネして混ぜ合わせます。次に香りの素を加えてさらに混ぜ合わせます。よく混ぜ合わさったら、これを型に入れて形を整えます。型は星とハート型がありました。それぞれ好きな型に混ぜ合わせた石鹼を押し込めて完成です。少し休憩時間があり、とても良い天気です。暑かったので、みなさんソフトクリーム売り場に集まりこれを食べました。また、バスに乗り、今度は大鳴門橋を渡り、一路高松市に向かいました。

5日は、大会終了後昼食会場にバスで移動しました。香川県と言えば讃岐うどんですね。おはちに入った冷たいうどんと混ぜご飯、揚げたての天ぷらなど、今回も盛りだくさんの昼食でした。その後、琴平町の宿泊ホテルに移動しました。

ここでバスを降り、荷物をホテルに預けてから徒歩で数百メートル移動しました。中野うどん学校琴平校で今回は、うどん作り体験です。最初は、予め熟成させたうどん粉を薄く広げてそれを4mm幅に包丁で切る作業でした。初めは母指球で力を込めて押し広げ、ある程度広がったら麺棒で平らに引き延ばしてか

ら切るものでした。係の人に教えていただきながら、それなりにうどんらしいものができました。それを持ち帰っておいしくいただきました。

次は、粉からのうどん作りです。粉に塩水を少しずつ加えながら粉をこねていきました。今度はそれをビニール袋に入れて、足で踏んでこねる作業です。これは、初めての体験でしたので、最初はこわごわと袋を踏んでいました。この時音楽もなり、みなさんそれぞれ楽しみながらうどん踏みをしたようです。

今回の研修旅行は、体験するものが多く、充実した4日間でした。いつものことですが、弱視者と全盲者が組になり、移動等、いろいろご協力いただきました。とてもたくさんの思い出ができました。皆さんに感謝申し上げます。ありがとうございました。

福祉協会協力金ご芳名(敬称略。入金順)

令和6年6月～11月までの協力者です。

[協力金]

一般社団法人岩手県鍼灸マッサージ師会	10,000円
岩手県立盛岡視覚支援学校	10,000円

心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

編集後記

会報「桐の花」102号をお届けします。

この時期に発行する会報は、「報告号」になってしまう傾向にありますが、福祉大会での祝賀会の様子やグランドソフトボールの試合、そして東北福祉大会・全国青年研修大会・全国女性研修大会で体験したことなどの紹介を含めた原稿を寄せていただきましたので、趣のある内容になったと編集作業をしながら楽しんでしまいました。

今年は100号という記念すべき特集号を含めて予定どおりの発行を終えます。今年度の残り1回は年明け発行となります。例年並みの冬になりそうですので、寒さに留意しつつ、良い年をお迎えください。

(編集委員:横澤 忠・及川 清隆・中田 一洋・成田 優子)

※ 音声デジ版の録音は盛内優子さんに担当していただいているものです。